

のせの教育の魅力を伝えていきます

# 教育長だより



文責 辻 新造

2025  
Nov.

ようやく秋が深まり、芸術・文化・スポーツなど文化活動に最適な季節となりました。  
今回の教育長だよりは、5つのテーマについて触れています。最後までご覧いただくと幸いです。

## # 1

## ライフル射撃の聖地と言われる能勢の誇るべき施設

10月4日（土）から7日（火）までの4日間、第79回国民スポーツ大会「わたSHIGA輝く国スポ ライフル射撃競技会」が能勢町山内にある「能勢ライフル射撃場」にて開催されました。

「滋賀大会なのに、どうして大阪府の能勢町が会場なの？」と疑問に思われた方もいらっしゃるかもしれません。その理由は、能勢ライフル射撃場がライフル種目のすべてとピストル種目の大半を一つの会場で実施できる全国トップクラスの競技施設を備えているからなのです。

これまでの国体（国民スポーツ大会）でも1997年開催なみはや国体、2006年開催のじぎく兵庫国体でも利用されてきました。そして今年の滋賀大会。



大会中に競技の様子を見学させていただきましたが、約30年前に、なみはや国体を受け入れた当時とは大きく違っていました。

電子標的が個別モニターに映し出され、観客に競技の様子がすぐに伝わり、「誰が」「何射目に」「的のどこに」「何点獲得したか」が一目瞭然で分かります。

観客席の大型モニターには、競技の途中経過（成績）が順次入れ替わる様子が映し出され、緊迫した競技風景と合わせてリアルタイムで競技が観戦できる工夫がなされています。デジタル技術の導入が大幅に進められ、競技を詳しく知らなくても、大変楽しむことができました。

能勢ライフル射撃場は、「西の能勢、東の長瀬（ながとろ）」といわれるほど全国のライフル射撃競技者にとって「聖地」として広く知られ、定期的に大会や合宿などが開催され、多くの方にご利用いただいています。

この施設は、大阪府ライフル射撃協会が運営されています。機会があれば、是非町民の皆さんにもご覧いただきたいと思います。



大阪ライフル射撃協会

## # 2

## 能勢の未来の教育を語る会議、総合教育会議が始まりました

能勢町のこれからの教育のあり方を定める「次期教育大綱」の策定に向けて動き出しています。教育大綱は、町長と教育長、教育委員が、今後の教育振興の方向性を協議し、連携して教育行政を推進するための羅針盤となります。

策定にあたっては、関係部局との意識共有はもちろん、教職員や関係者の意見を積極的に取り入れるほか、パブリックコメントを通じて町民の皆様からの幅広いご意見を反映させる予定です。子どもたちが自ら未来を切り拓く力を育めるよう、これから取り組むべき課題もテーマも反映させていただきます。

町の未来を担う教育について、引き続き皆様のご理解と、積極的なご参画をお願いいたします。



旧久佐々小学校の体育館、通称「敬愛舎」を改修し、子どもから高齢者まで、誰もが気軽に集える新しい図書館が誕生します。

私たちは、心健やかに過ごし、世代を超えてつながる「未来の図書館」をめざし、皆さんの思いやアイデアを知るために住民参加の場として「のせのセッション」を立ち上げました。

みんなの願いをのせて、新しい図書館の姿を描きましょう！

11月3日（祝）「能勢さとやま文化ゆめまつり」において、そのイベント「のせのセッション」を開催します。

私も岡田町長とともにメッセージ配信をおこないます。普段は見られない二人の掛け合いも、照れながらも張り切ってやっています。

是非ご来場の上ご覧いただきたいと思います。

■ 公式Instagramアカウント：[@nose\\_no\\_session](#)

様々な情報発信はinstagramで行っていきます。ワークショップ「のせのセッション」の参加者募集は、町公式LINEで後日案内する予定です。是非ご参加ください。



あまり知られていませんが、能勢町には平安・鎌倉時代からの山城が数多く残されています。その数、約30か所にもものぼります。山城といっても砦（とりで）とか居館（きょかん）などの城跡が、お住いの地域の山の上に現存しています。

身近に山城があることを聞くだけでも何かワクワクしませんか？町内に今でも残る山城を紹介します。

化して、住居周辺に壕や柵をめぐらし、山上には詰城を構えて防御し、周辺の地侍と同盟を結んで、侵略に備えたのではないかと考えられています。

町史によると、野間氏の野間城・野間居館、森本氏の今西城、山田氏の山田城、大町氏の山辺城、能勢氏の丸山城（地黄古城）森上城は規模が大きいとされており、縄張りが100m規模の城郭は11城あるといわれています。

能勢の山城を代表する丸山城と山辺城について紹介します。

■丸山城（まるやまじょう）

丸山城は、東郷地区の地黄にあり、能勢氏の菩提寺である清普寺参道付近から、大手坂を登って本丸までいくことができます。能勢頼次が関ヶ原の戦いで能勢に戻り能勢地黄城が築城される以前、歴代の能勢氏の居城となっていた城。南北155m、東西302mの敷地。本丸、二の丸、三の丸、見張櫓（みはりやぐら）、帯廊（おびぐるわ）、塹堀、武者がくし、大手坂などが残っています。1602年（慶長7年）に廃城となりました。



清普寺参道から丸山城を望む

地区名	城郭・居館等の名称	地区内総数
岐尼（きね）地区	垂水城、山田城、浮ノ城、山辺城、森上城、上杉城、上杉下所城、今西砦、長谷居館、森上居館	10
久佐々（くささ）地区	宿野城、井内城、片山城、平通城、吉村城、下見砦、明月砦、栗栖砦	8
東郷（とうごう）地区	丸山城、野間中城、野間城、野間居館	4
天王（てんのう）地区	天王砦、吉良居館	2
田尻（たじり）地区	田尻城、田尻東山城	2
歌垣（うたがき）地区	吉野城、杉原城	2
合計	-	28

能勢のような場所に、どうしてこんなに多くの山城が作られたのでしょうか？それには、理由があります。

能勢は、従来、摂津の国と丹波の国の中間に位置し、常に大豪族の間で苦慮していました。また、多田鉦山の鉦区にある能勢には、1037年（長暦元年）能勢採銅所が存在し、南北朝時代にかけて運営されていました。（出展：能勢町史第1巻）

荘園体制の崩壊とともに、守護、国人層、地侍の侵略が激しく、当時の幕府にお願いしてもそうそう対処してもらえませんでした。銅などの鉦物資源を手に入れた豪族が行き来するので、能勢の農民や地侍は、自ら武装



東山辺から城山を望む

### ■山辺城 (やまべじょう)

国道173号を北向きに車を進め栗栖交差点付近から正面に大きく見える山が城山(標高427m)です。この山上に山辺城があります。山頂の真ん中が凹み、2こぶある山で、「城山」という名前で親しまれています。

能勢町にある城郭の中で最も規模が大きく堅固な山城の一つとされ、能勢地域で最大の勢力者の城であった可能性が考えられています。城の形状が「鷹の爪」に似ていることから、「鷹爪城」(たかつめじょう)ともいわれています。

大里、宿野、山辺からなどから登ることができ、それぞれの場所から見える山の表情から、別名「能勢富士」とも呼ばれてきました。

# 5

## 能勢の里山ハイク：城山で山城の遺構を訪ね、「なまいけ山」伝説に触れる



### ■向山コース (垂水)

垂水にある、なまいけ山(向山)です。「姥捨」伝説のある「なまいけ山」です。地元の方のガイドにより、垂水区の集落から背後に岐尼ノ田を眺めながら、垂水の地名の由来につながる枯れることのない泉など、地元ならではのエピソードをお聞きしながら山頂まで歩きました。向山の山頂には、現地で境界石を加工された跡もあり、土地の境界を大事にされていたことがうかがわれました。

校長時代、6年生の子どもたちに郷土の歴史学習で神山にある岩坪古墳に向かう登山口で、必ず「岐尼ノ田」と「なまいけ山」の話をしました。なまいけ山伝説は、子どもが「年配者」を大切にするという教えが詰まっている昔話です。皆さんも読んでみてください。

### ■城山コース (宿野)

地元の山に詳しい方をガイドに城山に登りました。町道宿野剣尾山線から剣尾山中腹登山口を經由し山頂まで1時間ぐらいで登ることができました。案内人が「→城山」というハンドメイドの案内板を用意してくださり、登山口・分岐点に設置しながら登りました。

登山道は整備されており、頂上にはテレビアンテナが立っています。山辺城の城跡には堀切、土塁、曲輪、堅堀などを実際に見る事ができました。

山頂は木が大きく成長していて、正直いい眺めではありませんでしたが、昔は、随分見晴らしがよかったんだろうな?と想像できました。何かの機会を見つけ、地元の方々のご協力を得ながら、もっと見晴らしをよくする方法を考えて、山の整備ができればと感じました。



能勢の低山は身近な歴史の宝庫ですが、登山初心者の方は、まずこの山から挑戦してみるのがおすすめです。

### ■城山 (宿野)

難易度: 中

所要時間 (片道目安): 約60分

魅力: 案内板もあり整備されたルートで歩きやすく、山辺城の城跡である堀切、土塁、曲輪、堅堀などもあり、登山の達成感と山城の歴史を同時に感じられます。

※里山散策は、登山口付近の駐車スペース、登山道、標識などを事前に確認し、動きやすい服装でお出かけください。